

「素晴らしい創造主の発見」(2017. 8. 27)

7月26日、東北学院大学(工学部3年)における前期の講義とテストが終了し、8月中旬、140名を超える学生の答案を採点し、成績の処理を終えることができました。私は講義の度毎に出席カードを渡し、感想や質問を書かせて回収します。そしてその感想や質問について次の講義のはじめにコメントします。



そんな中、「キリスト教と科学」という第12回目の講義で、私は自然と数学の関係について語りました。パソコンを駆使して、アンモナイトと対数らせん、ヒマワリと黄金角、ケヤキとフラクタルとの関係性を示して、「宇宙は数学という言葉で書かれた書物である」(ガリレオ)というテーゼについてプレゼンしました。その感想に嬉しくなりました。「この世界は偶然の為せるものと思い込んでいたが、設計されたものではないかとの思いが湧き上がってきた」などとかなりの学生が書いてきたのです。ある学生は「これまでの講義で先生が一番生き生きして見えた」などというのもありました。それで、私は次の講義のはじめに、自分の証をしました。「高校2年の時に洗礼を受けて、素晴らしい救いに与り、すぐにも伝道者になりたかった。しかし、進化論のために神の創造が疑わしくなり、献身を延期してきた。でも、20数年後痛み深い主の導きによってこの問題が解決され、今牧師をしている。今日皆さんに示したプレゼンが私の疑いに対する神様の答えです。」

学生たちは、先入観として進化論が正しく、この世界が偶然の為せるわざだと無批判に受け入れています。しかし、世界の理解可能性—「私には唯一理解できないことがある。それは世界が理解できることだ。」(アインシュタイン)—という視点から、この世界は設計されたものではないか、との思いを多くの学生が持つようになったのです。

また、7月27日から8月2日にかけて、京都、鳥羽、名古屋、浜松、小田原と教会・友人を訪問してきました。2200キロの車の長旅でしたが、無事守られ、横手に辿り着きました。その中で、鳥羽教会において「素晴らしい創造主の発見」と題して説教させていただきました。内容は、学生に語ったのと同じです。高齢の信徒さんが多かったのですが、創造の素晴らしさに驚かされていました。

若くても高齢でも、神の創造の素晴らしさに感動します。神の創造に込められた知恵と力、愛と祝福を一人でも多くの同胞に伝える、これが私の第2の使命です。横手教会の理解をいただき、CRJ*理事の一人として活動できることに感謝しています。

(*CRJ:Creation Reseach Japan 福音の土台である創造を科学的に探究し伝える団体)